

## 平成 28 年度いわて特別支援教育推進プラン等施策の取組状況について

## 1 平成 28 年度事業実施状況について

## (1) 校種別研修事業

## ア 幼稚園、保育所等対象

## ① 幼児期における特別支援教育研修会

- 〔久慈会場〕平成 28 年 6 月 18 日（土）久慈地区合同庁舎 参加者 34 名  
 講義「特別な支援を必要とする幼児の状態等に応じた計画的、組織的な指導の在り方について」  
 講師 盛岡市立太田幼稚園 園長 佐々木 恵理子 氏
- 講義「特別な支援を必要とする幼児の小学校等への就学について」  
 講師 学校教育室 指導主事 五安城 正 敏
- 〔盛岡会場〕平成 28 年 6 月 25 日（土）盛岡地区合同庁舎 参加者 85 名  
 講義「特別な支援を必要とする幼児の状態等に応じた計画的、組織的な指導の在り方について」  
 講師 平泉町立幼稚園 教諭 菅 原 茜 氏
- 講義「特別な支援を必要とする幼児の小学校等への就学について」  
 講師 学校教育室 指導主事 五安城 正 敏

## 【成果】

- ・幼稚園、保育所等の関係者を対象とした研修であることから、比較的参加しやすい土曜日に開催することにより、多くの方に参加してもらうことができた。
- ・研修会の内容を、「実践事例に基づく計画的・組織的な指導の在り方」と、「小学校の就学にかかわる手続きの手順や相談の進め方」としたことにより、多くの方から「園での取組に生かすことができる」、「見通しをもって保護者との相談を行うことができる」など、高い評価を得ることができた。

## 【課題】

- ・県内 2 会場のうち、1 会場は沿岸地区でのローテーションとし、1 会場は県内各地から集まりやすいことから盛岡会場としてきた。より広く、より多くの方々に参加いただくことができるように開催地区や周知方法など検討していく。

## イ 小中学校・義務教育学校、高等学校関係

## ① 特別支援教育コーディネーター連絡会による研修

- 〔盛岡地区〕平成 28 年 8 月 8 日（月）八幡平市役所 参加者 41 名  
 講義「連携事例に学ぶスキルアップの手がかり」  
 講師 岩手大学大学院 准教授 佐々木 全 氏
- 協議「盛岡地区における特別支援教育の推進に向けて」
- 〔中部・県南地区〕平成 29 年 1 月 12 日（木）花巻市文化会館 参加者 97 名  
 講義「特別な教育的支援を必要とする児童生徒等への円滑な教育支援」  
 講師 学校教育室 指導主事 五安城 正 敏
- 協議「中部・県南地区における特別支援教育の推進に向けて」
- 〔沿岸 3 地区〕平成 28 年 12 月 7 日（水）釜石高等学校 参加者 59 名  
 講義「特別な教育的支援を必要とする児童生徒等への円滑な教育支援」  
 講師 学校教育室 指導主事 五安城 正 敏
- 協議「沿岸 3 地区における特別支援教育の推進に向けて」

〔県北地区〕平成29年1月11日（水）久慈地区合同庁舎 参加者70名  
講義「スクールソーシャルワーカーの役割と学校・家庭との連携」  
講師 岩手県立大学 講師 櫻 幸 恵 氏  
協議「県北地区における特別支援教育の推進に向けて」

- ② 特別支援教育支援員研修会（小中学校・義務教育学校、高等学校）
- ・日 時 平成28年8月5日（金）
  - ・会 場 盛岡視覚支援学校
  - ・参加者 小中学校・義務教育学校、高等学校の特別支援教育支援員、介助員等121名
  - ・内 容 講義「校内資源を活用した特別支援教育実践事例」  
講師 学校教育室 指導主事 五安城 正 敏  
実践紹介「特別支援教育支援員による取組」  
講師 杜陵高等学校 特別支援教育支援員 細 田 晴 美 氏  
協議「担当する児童生徒への望ましい支援の在り方」

#### 【成果】

- ・県内各地から参加できるよう、夏季休業を利用した研修会を盛岡会場にて実施したことにより、多くの方々に参加いただいた（年度当初は、各市町村において実状に合わせながら、特別支援教育エリアコーディネーターを活用するなどして実施）。
- ・協議における小グループ化、特別支援学校教員による進行などにより、日常の課題の解決や、支援の方向性につながる話し合いとなった。

#### 【課題】

- ・実践紹介の時間拡大も含めて、テーマ、内容、校種等についてさらに検討していく。

- ③ 高等学校特別支援教育コーディネーター研修

- ・日 時 平成28年5月26日（木）9:00～16:15
- ・会 場 総合教育センター
- ・参加者 全県立高等学校特別支援教育コーディネーター 76名
- ・内 容 講義「高等学校における特別支援教育の推進」  
講師 岩手大学大学院 准教授 佐々木 全 氏  
選択講義①「特別支援教育コーディネーターの役割」  
②「発達障がいの基本的理解と対応」  
③「個別の指導計画作成のポイント」  
実践発表及び協議 「高等学校における特別支援教育推進の実際」

#### 【成果】

- ・研修会を積み重ねることにより、特別支援教育コーディネーターとして継続指名されている教員のスキルが高まってきている。

#### 【課題】

- ・特別支援教育に関する知識や経験年数に差があることから、コース別等の導入を含めた研修内容を検討していく。

## ウ その他

- ① いわて特別支援教育講演会

〔盛岡会場〕平成28年9月10日（土）盛岡視覚支援学校 参加者95名  
〔宮古会場〕平成28年10月29日（土）宮古地区合同庁舎 参加者33名  
講義「青年期における発達障がいへの理解と支援  
～幼児期、学童期からの望ましい指導・支援～」  
講師 宮城学院女子大学教育学部 教授 梅 田 真 理 氏

〔北上会場〕平成 28 年 9 月 24 日（土）北上地区合同庁舎 参加者 77 名  
 講義「子どもの行動把握と具体的な対応について  
 ～特別な支援を必要とする子どもへの理解を深めるために～  
 講師 宮城教育大学教職大学院 教授 村上由則氏

**【成果】**

- ・週末の開催としたことなどにより、幼稚園、保育所、保護者等広く一般県民の方に参加していただくことができた。

**【課題】**

- ・今後も身近な地域で多くの県民が受講し、特別支援教育について理解を深める機会となるよう、開催地区や周知の方法について検討していく。

**(2) 特別支援教育体制整備について**

**ア 継続型訪問支援**

- ・幼稚園（保育所含む）、特別支援学級を対象に年間 3 回を目途に訪問支援を実施。
- ・平成 28 年度事業対象 80 校・園
- ・特別支援教育エリアコーディネーター対応件数 56 件 ※平成 28 年 12 月末現在

**イ 特別支援教育エリアコーディネーター**

**【趣旨】**

- ・特別支援教育の一層の推進、充実を図るため、教育事務所や市町村教育委員会及び各学校への支援を強化することを目的に配置。

**【業務実績】**

- ・対応延べ件数：772 件（内訳 支援・教育相談関係：398 件 研修関係：374 件）  
 ※平成 28 年 12 月末現在

**【成果】**

- ・地域毎の特別支援教育コーディネーター連絡会による研修会の開催が 2 年目となり、地域内の小・中学校、特別支援学校、関係機関との連携が深まった。
- ・定期的に担当会議を開催し各業務の打合せを行うとともに、各地区における特別支援教育事業や就学支援についての現状確認と、今後の対応等について検討することができた。

**【課題】**

- ・特別支援教育エリアコーディネーター業務の効率的・効果的な調整を図る。
- ・特別支援教育コーディネーター連絡会や特別支援学校のセンター的機能をさらに活用していく。

**ウ 特別支援学校への巡回相談**

**【趣旨】**

- ・特別支援学校に在籍する心理的な不安等を抱える児童生徒及び教職員、保護者にカウンセラーを派遣し、指導助言を受けることを通して児童生徒への支援の充実を図る。

**【実施状況】**

今年度は以下の 13 校にて実施。

|   | 対 象 校    | 実施回数 | 1 回の時間 |
|---|----------|------|--------|
| 1 | 盛岡視覚支援学校 | 5 回  | 3 時間   |
| 2 | 盛岡聴覚支援学校 | 4 回  | 3 時間   |

|    |            |     |     |
|----|------------|-----|-----|
| 3  | 盛岡となん支援学校  | 7回  | 3時間 |
| 4  | 盛岡青松支援学校   | 6回  | 3時間 |
| 5  | 盛岡峰南高等支援学校 | 5回  | 3時間 |
| 6  | 盛岡みたけ等支援学校 | 3回  | 3時間 |
| 7  | 花巻清風支援学校   | 7回  | 3時間 |
| 8  | 前沢明峰支援学校   | 3回  | 3時間 |
| 9  | 一関清明支援学校   | 4回  | 3時間 |
| 10 | 気仙光陵支援学校   | 6回  | 3時間 |
| 11 | 釜石祥雲支援学校   | 11回 | 3時間 |
| 12 | 宮古恵風支援学校   | 3回  | 3時間 |
| 13 | 久慈拓陽支援学校   | 4回  | 3時間 |

**【成果】**

- ・発達障がい傾向の児童生徒の対応や被災した児童生徒の心のケア等、専門家派遣の要請が多いことから、本事業による重要な取組となっている。
- ・沿岸地区特別支援学校及び高等部生徒への対応回数を増やしている。

**【課題】**

- ・各学校からの要望回数の増加に伴う対応が必要である。

**エ 副次的な籍「交流籍」を活用した交流及び共同学習の推進**

**【趣旨】**

- ・特別支援学校の小・中学部に在籍する児童生徒が、居住する地域との関わりを充実させるために、居住する地域の小・中学校に「交流籍」を位置付け、居住地校との交流及び共同学習を推進する。

**【確認事項】**

- ・居住地の学区の小・中学校を対象として実施することを原則としていること。
- ・特段の事情がある場合、学区外の特別支援学級設置校等を希望することもできること。
- ・交流及び共同学習は在籍校の教育課程に基づいて実施するものであり、在籍校の教員が引率し、指導することを原則とすること。また、交流籍校への移動に当たっては、保護者の責任のもとで行うものであること。

**【成果】**

- ・小学部、中学部を設置している全県立特別支援学校（分校含む）13校で実施。
- ・年度当初 352名（前年比+26名）の申請があった。
- ・継続的な取組による、交流及び共同学習の内容の広がりや深まりが見られる。

**【課題】**

- ・学校間交流も含めた交流及び共同学習のさらなる周知と推進を図る。

## オ 企業との連携協議会（特別支援学校キャリア教育推進事業）

### 【趣旨】

- ・地域の事業所・企業に特別支援学校や障がいのある生徒への理解促進・就労への協力等を得るために、地域の特別支援学校と企業との連携協議会を設立し、年2回開催している。

### 【成果】

- ・盛岡地区（盛岡峰南高等支援・盛岡みたけ支援学校、11企業・事業所等）
  - ・花巻、北上地区（花巻清風支援学校、10企業）
  - ・奥州地区（前沢明峰支援学校、6企業）
  - ・気仙地区（気仙光陵支援学校、5企業）
  - ・釜石地区（釜石祥雲支援学校、7企業）
  - ・宮古地区（宮古恵風支援学校、7企業）
  - ・久慈地区（久慈拓陽支援学校、10企業）
  - ・一関地区（一関清明支援学校、11企業）
- の8地区において実施（67企業参加）。

### 【課題】

- ・参加企業の拡大と活動内容の充実を図る。

## カ 震災からの教育の復興（沿岸地区特別支援学校等職業指導支援員の配置事業）

### 【趣旨】

- ・震災により沿岸部の特別支援学校生徒の現場実習先及び就労先の確保が厳しいことから、沿岸部の4校に各1名及び盛岡峰南高等支援学校に2名の職業指導支援員を配置し、就労に向けた支援を図る。

### 【成果】

- ・進路担当者の職場開拓の時間の確保、作業学習等における支援の充実を図ることができた。

### 【課題】

- ・実習先企業への訪問や実習生への支援など、支援員の積極的活用を図る。

## キ 障がい者雇用促進対策事業

- 校務補助員の配置
  - ・県立高校の業務負担を軽減するため、校務補助員として障がい者を41名雇用している。
- 特別支援学校高等部卒業生の就業支援
  - ・今年度の学校等への卒業生雇用は延べ2名

## ク 特別支援学校医療的ケア体制推進事業

- 配置状況
  - ・7校41名の児童生徒を対象に医療的ケアを実施した。
  - ・看護師を41名任用して学校の実情に対応している。

### (3) 特別支援教育かがやきプラン推進事業

- 配置状況
  - ・高等学校 33 校へ 34 名の特別支援教育支援員を配置した。
- 特別支援教育支援員研修会
  - ・研修会を通じて、支援員の資質の向上を図るとともに、各校における支援状況について情報交換を行った。

### (4) 就学前からの取組

#### ア 市町村就学支援担当者研修会

- ① 期日及び会場  
平成 28 年 5 月 20 日（金）総合教育センター
- ② 参加者  
33 市町村から 33 名の参加

#### 【成果】

- ・特別な支援を必要とする子どもの就学手続と早期からの一貫した支援の考え方について、理解を深める研修会とすることができた。
- ・本県における就学に関する事務手続や、就学支援にかかわる取組状況、課題等について確認することができた。

#### 【課題】

- ・各市町村においては、本研修内容を、地域の特別支援教育コーディネーター連絡会による研修会を活用するなどして、各校就学支援担当者に周知し、地域における就学支援のさらなる推進につなげる。

### (5) 特別支援教育ボランティア養成講座の開催

#### ア 実施校

##### ① 盛岡となん支援学校

| 開催回数 | 参加延べ人数 | 修了生数 | ボランティア登録者 |
|------|--------|------|-----------|
| 8 回  | 86 名   | 9 名  | 5 名       |

##### ② 一関清明支援学校

| 開催回数 | 参加延べ人数 | 修了生数 | ボランティア登録者 |
|------|--------|------|-----------|
| 6 回  | 68 名   | 12 名 | 9 名       |

##### ③ 久慈拓陽支援学校

| 開催回数 | 参加延べ人数 | 修了生数 | ボランティア登録者 |
|------|--------|------|-----------|
| 7 回  | 86 名   | 13 名 | 11 名      |

#### 【成果】

- ・各校において、養成講座の内容を工夫したことにより、参加人数、ボランティア登録者ともに例年と比べ増となった。

(6) スクールトライアル事業〔教員志望の学生を特別支援学校へ派遣する事業〕

ア 支援要請校

- ・計2校（盛岡となん支援学校、盛岡みたけ支援学校）

イ 派遣学生数（延べ人数） 1月末現在

- ・計11名（岩手大学10名、盛岡大学1名）

【課題】

- ・昨年度比で派遣学生数が5名減となった。志望者の減少が要因と考えられる。次年度は、大学側に十分な周知を依頼するなどにより派遣者数の増を図る。